

ワールドカップ開幕 特別企画！ コスタリカと日本、1次リーグ突破に向けて共闘！



ワールドカップも開幕し、連日メディアでも取り上げられ盛り上がりを見せておりますが、日本と同じリーグに入った中南米の国といえば「コスタリカ」。

そのコスタリカにある JICA 在外拠点にはサッカーをこよなく愛するサッカー女子！呉田幸子さんが働いています。今回は呉田さんに直撃インタビューし、ワールドカップの熱き波に乗りながら中南米の国“コスタリカ”を紹介します。

●コスタリカがワールドカップに出場が決まった時の感想を教えてください。

コスタリカの出場が決まった時、実は私自身は休暇一時帰国中だったので、日本でテレビのニュースで見えていました。JICA コスタリカ支所があるショッピングモールが日本のテレビに映し出されていて、そのモールの広場の前でコスタリカ代表になったことお祝いしていたのです。興奮して家族をテレビの前に集合させていました。

出場が決まる試合の当日の様子を支所のスタッフに聞いたところ、首都のショッピングモールに試合観戦のため超大型テレビが設置され、平日にも関わらず、コスタリカチームの赤いユニフォームを着た地元の人たちがモール内を埋め尽くしていました。

そして、コスタリカが試合に勝った瞬間からは国中がお祭り騒ぎで、首都中心地の道路の一部が歩行者天国状態になり、多くの人が集まり喜びを分かち合っていたようです。

コスタリカは予選本体では出場を決定できず、プレーオフで残りの 0.5 枠を勝ち得ました。予選の最初は出場圏外で諦め気味の雰囲気もあったので、起死回生って感じでした！

●コスタリカのサッカー事情は？

コスタリカの一番人気スポーツはサッカーです。日頃リーグ戦も盛り上がっています。首都圏にも何個かチームがあって、それぞれ熱い思いを持っているのが特徴です。私の友達には、カップルで違うチームを応援していて、いつもそれで言い合いをしている人もいます。



W 杯出場決定を祝う人々
(JICA コスタリカ支所の広場)

今年 8 月には、U-20 女子ワールドカップの開催国になり、そこで日本は準優勝しました。コスタリカ自身はグループリーグで敗退してしまいましたが、日本対スペインの決勝戦までコスタリカ人の熱は冷めず国立競技場が満員になったほどです。ヤングなでしこジャパンのひたむき姿に、コスタリカ人は感動し、今では、日本サッカーの実力や素晴らしさはコスタリカ人も良く知っています。もちろん JICA メンバーも大使館職員や現地在住日本人の方と声を掛け合って応援団を結成し、初戦のスカスカなスタジアムから応援し続けました。



U20 女子 W 杯に支所スタッフみんなで応援！

この大会にむけて、コスタリカ在住の日本人やコスタリカ人の友人に呼びかけ、応援の輪をひろげてきたので、試合を重ねる毎に、スタジアムを訪れる人が増え、スペイン語に翻訳したヤングなでしこジャパン応援コールと共に「ハポン(日本)コール」がスタジオに響き渡りました。サッカーを通して、日本とコスタリカを繋げることが出来たかなと、あの場面を思い出すと今でも感動です。

●ワールドカップにむけての今の盛り上がりは？どんな感じですか？

テレビや新聞でかなりの記事を見かけます。コスタリカの友人からも「いよいよだね」と声をかけられるようになりました。

政府は「公務員は試合時間中には仕事をしなくていい」という公式なアナウンスをしました(日本戦は日曜の朝 4 時なので該当しません)。また、民間企業に勤めている人が仮病を使って試合を見ようとするケースが多発して無駄な医療保険費が使われてしまうことも懸念されるため、「仮病を使わずに済むように雇用主にテレビをつけていいか交渉するなどの対策をとれ」という新聞記事の呼びかけなどがありました。

●日本の目標は悲願のベスト 8 位ですがコスタリカは？

実は、2014 年のブラジル大会でコスタリカはベスト 8 になりました。その意味では、先輩！！ただし、日本とコスタリカは今回「死のグループ」にいるので、グループリーグ突破するのが最初の目標なのではないかと思います。一緒にグループリーグを突破できたら最高ですが…。スペインとドイツは強いです。FIFA ランキングは日本が 24 位、コスタリカが 31 位です。ご参考に、過去のワールドカップでの成績をどうぞ。

	日本	コスタリカ
1990	-	ベスト 16
1998	グループステージ敗退	-
2002	ベスト 16	グループステージ敗退
2006	グループステージ敗退	グループステージ敗退
2010	ベスト 16	-
2014	グループステージ敗退	ベスト 8
2018	ベスト 16	グループステージ敗退

●いよいよ、リーグ第2戦はコスタリカと日本の直接対決。その時、呉田さんはどちらを応援しますか？コスタリカ支所内での雰囲気はどんな感じでしょうか？

私は日本を応援します。コスタリカにいと圧倒的少数派ですが、頑張ります。日本とコスタリカが共にグループリーグ突破したら素晴らしいですよ。

コスタリカ支所の日本人スタッフは「コスタリカ在住が長いのでコスタリカを応援します。前回親善試合で日本を応援するつもりだったのですが、いつの間にかコスタリカを応援していました。なので、今回はコスタリカ応援になると思います」とのこと！

コスタリカ人とご結婚されている日本人の方も身近にいますので、家庭内ではどうなることやら！

しかしコスタリカ人は優しいので「日本とは敵になるのではなくて、友達だよ。ワールドカップで戦えるなんて素晴らしいじゃないか！」といったようなことを言ってくれます。

コスタリカ人のナショナルスタッフにコスタリカと日本が戦うことについて聞いたところ、「とても楽しみ。W杯でコスタリカと日本が初めて対戦する。できれば両方勝ってほしい。日本に野球留学をしていたことがあるから、日本のスポーツには特別な思いやリスペクトの気持ちがある。でも同時にコスタリカにはカタールで歴史を作ってほしいので、とっても複雑な気持ち。引き分けになるかな(笑)」とのこと。



JICA コスタリカ支所スタッフ（サッカーチームをイメージして撮影）。11人目は読者の皆さん！一緒に応援しましょう。

コスタリカ人の運転手は、「コスタリカ代表がW杯でプレーできることが嬉しい。コスタリカに勝ってほしい一方で日本にも勝ってほしい。コスタリカが日本に勝つためには、プレーひとつひとつが正確であること。そして集中することが大事。日本はすごく速いから」と言っていました。

●サッカー女子！呉田さんに伺います！今回の日本とコスタリカ戦の見どころは？1次予選を共に突破できるためのポイントはどこだと思いますか？

サッカーは何が起こるかわかりません。ワールドカップはあらゆることが起こり得る場所です。ヨーロッパで活躍している選手が多いので、経験を活かして、日本らしいサッカーをしてほしいです。コスタリカと日本の選手の体格は全然違います。コスタリカのディフェンスに背の高いワストン選手がいるので要注意です。また、フォワードの選手も早くてシュートがうまいカンベル選手がいます。

●先ほども何人かコスタリカの選手の名前が挙がっていましたが、呉田さんが注目するコスタリカの選手を教えてください。



なんといっても絶対的守護神ケイロル・ナバス！サッカー好きで彼を知らない人はいないでしょう。唯一ヨーロッパでプレーするベテランで、チームには遅れて合流しました。彼のセービング能力は世界トップレベル。日本がゴール前にたどり着いても最後には彼がいます。さて、彼はペレスセレドンというコスタリカ南部の出身ですが、JICA とかなり関わりが深いのです。ペレスセレドンでは、日本が JICA を通じて長年障害者自立生活支援の協力を展開しています。技術協力、草の根技術協力、草の根無償資金協力といった様々なスキームを使って、障害者の自立生活促進に貢献しています。コスタリカモデルは、中南米の模範となっており、その知見を地域内に広める活動もしています。(※文末にプロジェクト概要を紹介)

●試合観戦はどのようなスタイルで応援予定ですか？

日本を応援するときには、色々な歌(チャント)があり、コアサポーターの音頭に従って太鼓のリズムに合わせてみんなで歌いますよね。コスタリカ人は特にそういうのは無く、友達や家族と集まってテレビ観戦し、叫び、一喜一憂し、お酒を飲みながら応援します。

●JICA のコスタリカの取り組みで注目してほしい！というところは？

コスタリカでは、たくさんのスポーツ種目の JICA 海外協力隊員が活躍してきました。サッカーはコスタリカで人材があるので、体操競技、水泳、体育、バスケットボール、バレーボール、陸上競技、シンクロ、体育、卓球、フェンシングといった様々な競技分野です。スポーツを通して、コスタリカと日本の交流を図っています。

コスタリカは JICA を通じた日本(政府)の協力を受けている(被援助国)という面だけではなくて、日本の協力の成果としてコスタリカの強みとなった生物多様性保全や再生可能エネルギーなどの分野で、中米地域、そして中南米カリブ地域の他国に対して人材育成や制度構築支援などに共に汗を流していっしょに取り組んでいる、そういう意味でも大切な仲間である国です。

コスタリカは再生エネルギー発電がほぼ 100%。日本は特に地熱分野の開発に長年取り組んできていて、コスタリカにも協力しています。また、コスタリカは、世界の国土の 0.03%しか持ちませんが、その中に地球上の生物の 6%が存在しています。生物多様性保全の分野でも JICA は長年協力をしています。



「なまけもの」はコスタリカでも「perezoso」と呼ばれている(スペイン語で、なまけもの、ぐうたらなという意味)

●最後に、コスタリカのことをもっと知ってもらうためにコスタリカの料理を教えてください

ガジョピントは伝統的な朝ごはん。豆ごはんです。チーズや卵、バナナの甘煮？と一緒に食べます。日本対コスタリカの試合は朝 4 時なので、試合が終わったらガジョピントですかね。

日本で見つけられるコスタリカの食べ物といえばフルーツとコーヒーです。コスタリカ産のバナナやパイナップルがもしかしたらスーパーにあるかも？コスタリカはパイナップルの輸出量が世界一で、市場には安く売っているので、毎日食べています。

コーヒー屋さんにももしかしたらコスタリカのコーヒーがあると思うので、探してみてくださいいね。

ワールドカップには数多くの国が参加しています。今回はサッカー女子の呉田さんがいるコスタリカをご紹介しましたが、ぜひ世界のいろいろな国々に興味をもってもらえたら嬉しいです。

まずは、日本とコスタリカが一次リーグ突破できるよう、コーヒーを飲みつつ、バナナやパイナップルで栄養を補給しながら、一緒に応援しませんか？



コスタリカコーヒーと“ガジョピント”

=====

【コスタリカ障害者自立支援】

障害者の社会参加と人権の視点からの障害政策の結晶として、2016年に「障害者自立生活促進法」が施行され、国の補助金によって障害者が介助者を利用して、自立生活を自分の意思決定で行える制度が確立された。そこには、特に JICA が協力を行ったカロイエプロジェクト(2007-2012年)を通じて障害の社会モデルに基づいて障害者のエンパワメントと自立生活の推進を行ってきた活動が大きい。こうしたコスタリカの先進的な国の障害政策と、障害当事者のエンパワメントは、自立生活の推進や同様な法律制定を目指すラテンアメリカ諸国の模範事例となっている。

コスタリカのモルフォ自立生活センターを主導に、コロナ禍で誕生した RELAVIN というラテンアメリカ障害者自立生活ネットワークには現在域内 10 か国が参加しており、域内セミナーやオンライン会議を通じて、コスタリカの先進事例とグッドプラクティスを参加国に共有してきた。これらの潮流を受けてのコスタリカの成功モデルは、障害者諮問機関である国家障害者審議会 (CONAPDIS) による障害者自立生活支援制度、モルフォ自立生活センターによる障害者のエンパワメントと当事者の視点からの様々な障害者へのサービス提供、これらの活動を継続的に支援する日本の国際協力の三位一体で実現されたものである。第三国研修を通じて域内諸国における障害者自立生活運動を促進し、法の制定と整備、インクルーシブな開発を行うための人材育成と、経験と知見の域内共有を行うことを目指す。